

平成30年11月14日  
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

<p>標 題</p>	<p>学校給食用米贈呈式が開かれる！ in 津和野 ～「わくわくつわの協同組合」が県内で初の取り組み～</p>
------------	---

(ダイジェスト)

10月31日に「(農)おくがの村」ライスセンターにて、「わくわくつわの協同組合」が、津和野町内の小・中学校に平成30年産米コシヒカリを100袋(3t)無償提供するとして、その贈呈式が開かれました。これほどの量のお米を直接学校に提供する事例はなく、今回県内初の取り組みとなりました。

「わくわくつわの協同組合」は平成21年に集落営農組織の広域連携型法人として設立され、「組合員の相互扶助」と「農用地の有効利用」の精神の基、農業機械の共同利用や燃油貯蔵所の運営など、農業振興だけではなく、地域振興・地域貢献にも積極的に取り組んでいます。

今年は「人間生きるのに金も必要だが、食べないと生きられない。農業の大切さを津和野の米を通じて知ってもらおうとともに『ふるさとの味』として覚えてほしい」という思いから、10月31日に「(農)おくがの村」ライスセンターにて、学校給食用米贈呈式が開かれ、生産者及び木部小学校の生徒、関係者を併せて総勢50人以上が参加しました。式では、「わくわくつわの協同組合」の糸賀理事長による‘‘ここだけでしか聞けない授業’’や、木部小学校の生徒達による校歌でのプレゼントなどがあり、始終笑いの絶えないものとなりました。

県内の学校給食における米の自給率は100%ですが、このような取り組みは他に例がなく、県内初の取り組みです。普及部では今後も「わくわくつわの協同組合」の活動を支援していき、農業振興・地域振興・地域貢献に取り組んでいきます。



写真-1 子供達の合唱風景



写真-2 ‘‘ここだけでしか聞けない授業’’